



「根のある草は 芽をふく 自ら伸びる 花を開く」

(東井義雄 教育者)

しっかり根を張った子どもに育てましょう。根を張った子どもは、芽を出し、綺麗な花を咲かせるのです。そのために必要なものは、「温かい家庭」です。

心を寄せる(3)



「UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)」の名称については、ロシアのウクライナ侵攻後、様々な場面で耳にするようになったので、どのような活動をしている団体なのかご存知の方も多くなったことでしょうか。世界各地の難民支援のため活動している団体です。「青少年育成センターだより第103号」でも「UNHCR」について取り上げています。ぜひ、読んでみてください。

その「UNHCR」の広報誌に載っていた記事をいくつか紹介します。

〈家族全員を失った12歳の少女〉

両親のことを思い出すと眠れなくなります。涙が出てしまいます。

ナイジェリアで避難生活を送るファルマタさん(12歳)は、武装勢力に父親を殺されました。母親も亡くなり、その後大切に育ててくれた祖母も、キャンプで病気にかかり命を落としました。幼い頃にポリオに感染し、障がいを抱えるファルマタさん。数々の苦難に襲われながらも、こう言います。「私は自分の足で歩く、普通の人間です。何も怖くありません。私が願うのは、学校を終了して良い職に就くことです。」

〈子どもたちのために、食事を抜いています〉

イエメンで避難生活を送る母親のマニヤさんと子どもたちは、深刻な貧困と飢えに直面しています。「子どもたちに食べさせることが第一です、私たち大人は時々食事を抜いています。子どもたちは空腹に耐えられませんから。子どもたちに与える牛乳もビスケットもありません。水とパンそれだけです。家に帰ってから安全に暮らし、水と十分な食料が得られるよう願っています」

〈どうか、娘を助けて〉

「病気の娘を助けてください。私はひとり親で、娘の薬が買えないのです。家族は義理の兄以外、みな亡くなってしまいました」

イエメンでUNHCRの職員にそう必死で訴えたのは、6人の子の母、ハナさん(39歳)。今世界中で、ハナさんのように支援を待ち続ける人々がいます。どうぞ、あなたの力をお貸しください。かけがえのない命を守るために。「あなたたちは忘れられていません」と伝えるために。

今、世界各地で起きている紛争や災害等で、家を追われた人々は一億人を超えているそうです。難民の人たちは、本当に大変な思いをしながら日々の生活を送られています。

そのような人たちのために私たちは何ができるのか、学校や家庭で話し合う時間をもつことはとても有意義なことだと思います。困っている人に「心を寄せる」ことのできる子どもに育てることは、私たち大人の責任です。